

事業活動実績報告書

施設名	浜島幼稚園
教育理念	友達を大切に、思いやりのある心、身体をたくましく育てる。

1 事業名	体操専門講師の指導を取り入れた理念の実現
2 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3	取組概要	(取組日) 令和7年4月10日 ～ 令和7年8月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【1学期】 ①マット運動(子犬歩き・クマ歩き・伸脚横転等) ②鉄棒(ぶら下がり・自転車こぎ・足掛けぶら下がり等) ③跳び箱(歩行一乗るージャンプ) ④縄跳び(なわ持ちジャンプ・蛇飛び等) ⑤陸上(短距離走・鬼遊び等)	
		(取組日) 令和7年9月1日 ～ 令和7年12月23日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【2学期】 ①ボール(バランス遊び・頭上投げ・遠投・玉入れ遊び) ②陸上(ランニング・変化走等) ③跳び箱(腕立て飛び上がり・ジャンプ進みー開脚飛び) ④鉄棒(ぶら下がり・ツバメバランス等) ⑤縄跳び(小波跳び・リズム跳び等)	
		(取組日) 令和8年1月8日 ～ 令和8年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【3学期】 ①マット運動(両足ジャンプ・横転・平均台等) ②鉄棒(足抜き回り・前回り等) ③跳び箱(分解歩行一両足跳び・馬乗り等) ④縄跳び前跳び・後ろ跳び・あや跳び等) ⑤陸上(ランニング・立ち止まり走等) ⑥ボール(ドッジボール・バランス遊び等)	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

効果検証報告書(継続事業用)

施設名		浜島幼稚園				
教育理念		友達を大切に、思いやりのある心、身体をたくましく育てる。				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)																																							
	健康	◎	人間関係	○	環境	○	言葉		表現																															
	1 事業名										体育専門講師の指導を取り入れた理念の実現																													
	2 事業概要										体育指導を通して、体力や体幹の向上を図る。																													
3 対象学級(クラス名) 対象人数	(クラス名: ばら組・れんげ組・たんぽぽ組)										51 名																													
	4 実施体制																				取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況																			
計画時	4 実施体制																				体育指導の専門講師を招聘し、幼稚園教諭が補助している。1977年より他園に先駆けて、この体制を整え子どもの成長に大きく役立っている。																			
	事業後	4についての効果・検証																				事業実績から推測される効果や改善点等																		
5 事業のねらい																				社会状況の変化から、こどもの世界でも遊びの時間や遊びの人数の減少がある。子どもの運動不足から、体力や体幹の低下傾向が見られる為、十分に身体を動かす必要がある。 運動能力面と精神活動面の調和的発育・発達を育む狙いを持って展開していく。指導者は、子ども一人一人の発達の過程や成長の過程を把握し、援助・言葉がけをしながら、子どもが伸び伸びと身体を動かすことができるように展開していく。 当園の特徴として「走る」ことを重要視している。走るフォームを整えるためには、体幹の強化が必要である。運動遊び(マット運動・鉄棒・跳び箱・縄跳び等)を取り入れて体幹を強くすることで、手の振りや足の上下の運びが自然に動くようになる。様々な運動を取り入れながら体力・体幹の向上を図る。																				
計画時	5 事業のねらい																				社会状況の変化から、こどもの世界でも遊びの時間や遊びの人数の減少がある。子どもの運動不足から、体力や体幹の低下傾向が見られる為、十分に身体を動かす必要がある。 運動能力面と精神活動面の調和的発育・発達を育む狙いを持って展開していく。指導者は、子ども一人一人の発達の過程や成長の過程を把握し、援助・言葉がけをしながら、子どもが伸び伸びと身体を動かすことができるように展開していく。 当園の特徴として「走る」ことを重要視している。走るフォームを整えるためには、体幹の強化が必要である。運動遊び(マット運動・鉄棒・跳び箱・縄跳び等)を取り入れて体幹を強くすることで、手の振りや足の上下の運びが自然に動くようになる。様々な運動を取り入れながら体力・体幹の向上を図る。																			
	事業後	5についての効果・検証																				事業実績から推測される効果や改善点等																		
6 取組の内容																				計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等																				
計画時	6 取組の内容																				【1学期】①マット運動(子犬歩き・クマ歩き・伸脚横転等)②鉄棒(ぶら下がり・自転車こぎ・足掛けぶら下がり等)③跳び箱(歩行一乗るージャンプ)④縄跳び(なわ持ちジャンプ・蛇飛び等)⑤陸上(短距離走・鬼遊び等) 【2学期】①ボール(バランス遊び・頭上投げ・遠投・玉入れ遊び)②陸上(ランニング・変化走等)③跳び箱(腕立て飛び上がり・ジャンプ進みー開脚飛び)④鉄棒(ツバメバランス等)⑤縄跳び(小波跳び・リズム跳び等) 【3学期】①マット運動(両足ジャンプ・横転・平均台等)②鉄棒(足抜き回り・前回り等)③跳び箱(分解歩行ー両足跳び・馬乗り等)④縄跳び前跳び・後ろ跳び・あや跳び等)⑤陸上(ランニング・立ち止まり走等)⑥ボール(ドッジボール・バランス遊び等)																			
	6 取組の内容																				上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点																			
	6 取組の内容																				健康の領域の『自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。』という「ねらい」に即し、『様々な遊びの中で、幼児が興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようになること。』という「内容」について、当園ではマラソン大会を通じて、競争ではなく『自分のペース』で運動することの楽しさを知ることに加え、友達を応援することで自分の体だけではなく友達の体も気遣う気持ちを持ったり、称えたりする気持ちを育むよう発展させた。																			
	6 取組の内容																				(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点																			
6 取組の内容																				今年度はマット運動に平均台を追加し、バランス感覚や平衡感覚を養う。子供に恐怖心を与えず楽しく参加できるよう、始めは平均台の上を歩くのではなく、くぐって遊んだり跳いだり、馬乗り進み等から取り組みを始める。最終的には歩行に挑戦し、慎重に歩くことで集中力や注意力が育まれると期待する。																				

計画時	事業後	6)についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 平均台運動では、狭い足場の上で姿勢を保持しようとすることでインナーマッスルが刺激され、走行時に体が左右に流れず「垂直な軸」を意識する力が養われた。最後まで渡り切るという明確なゴール設定があるため、途中で投げ出せずにやり遂げる持続的な集中力が見られた。
	7 環境構成例		【実施する場所】幼稚園ホール、園庭、グラウンド 【使用する器具・道具】マット、平均台、跳び箱、短なわ、鉄棒、ボールなど 器具や道具を使用しない徒手運動（動物歩き、鬼遊び、仰臥で早起き競争など）も取り入れることによって、運動が苦手な子供にも親しみを持って取り組めるよう展開していく。
	事業後	7)についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 器具・道具を使用しない徒手運動を構成したことで、運動が苦手な子どもの運動への抵抗感や恐怖心を和らげることができ、かつ楽しさを感じながら活動に親しむ姿が見られた。動物歩きなど、日常的な動きの延長にある徒手運動を取り入れたことで、スモールステップでの成功体験を積ませることができた。これが自信となり、運動全体に対する意欲の向上と、粘り強く取り組む姿勢へと波及した。
	8 期待される効果児童の姿		取組を通じて期待される児童の姿や効果等 体力や体幹の向上だけでなく、心と体のバランスを醸成する。心と体が安定すると本来の遊びが楽しくなり、子ども同士の関わりが深くなり、協同性や思いやる心も強くなる。体育の難易度の高い種目への積極的・意欲的な姿勢が全員から見られ、社会性の成長に好影響を及ぼす。
	事業後	8)についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 自分の体を自分の思うように動かせる感覚をつかむことで、「できた」という達成感から自己肯定感が醸成された。この自信は運動のみならず園生活における新しい課題への挑戦や、物事に粘り強く取り組む意欲の向上として表れている。
9 効果検証総括			事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 本事業では、正しい走行フォームの習得を目指し、その基盤となる体幹の強化を軸に様々な運動プログラムを展開した。マット、鉄棒、跳び箱、縄跳、平均台といった器具運動に加え、道具を用いない徒手運動を組み合わせることで、身体機能の向上のみならず、幼児期に極めて重要な心と体の調和を図ることを重視した。身体面における最大の効果は、体の支持力と平衡感覚の向上である。平均台やマット運動の積み重ねにより、走行時に上半身がぶれず視線が安定し力強くなやかなフォームを身に付けることに繋がった。また、怪我の未然防止に繋がる危険回避能力が、日常の遊びの中でも見られるようになった。精神面においては、平均台運動で養われた集中力・注意力が、活動の切り替えや他者の話を聞く姿勢などの園生活全般における情緒の安定に大きく寄与している。今後も、運動の得意不得意に関わらず、全園児が正しい走行フォームの基礎を楽しみながら習得できる環境を整えていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません（別紙は任意様式）。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。